

# 梅之木通信

## 【縄文住居をつくる会】

第6号 2019.8.13 発行

### 縄文時代の地鎮祭って？

いよいよ、梅之木遺跡公園の掘削許可が下り、竪穴住居の穴掘りが始まります。穴掘り作業に先立って“土地の神様への挨拶を”ということで地鎮祭を行うことにしました。縄文時代のなごりは地鎮祭にあるとも言われているようで、地鎮祭は正式には「とこしずめのまつり」というようです。このように読むとなんとなくそれなりの雰囲気が出てくる気がします。“この土地を使わせてください。ご迷惑でしょうかお許し下さい。”と神に祈ることにより、“土地は人間のものではなく、神様のものである”という謙虚な姿勢を縄文人たちは持っていたようです。我々も、当時の環境や生活の状況から考察した学芸員の佐野さんの指導の下、8月10日縄文時代の地鎮祭を体験しました。

★ すぐに地鎮祭が始まると思っていたら、しめ縄づくりから始まります。

ふじづるから取り出した繊維を撚りわけて縄をつり、結界を結ぶ紐として使うところにも拘りが。



★ 木組みをして、その下にお供え物を並べます。

当時は何をお供えしていたのでしょうか？ どんぐり、鹿肉や毛皮などお供えしたのでしょうか？ タバコやキャンディーは無かったと思いますが。。。まあ、それも良しとしましょう！



★ 神様へのご挨拶

神様登場？ 梅之木在住の縄文人に加えて市民ボランティアの人たちも参加。  
縄文人の DNA を多く持つと言われているアイヌの言葉で大地を掘るお許しを神々にお願いしました。  
現代の日本人も 15% は縄文人の DNA に由来しているそうなので、われわれも縄文人の末裔であることには間違いなさそうです。



★ 火起こし

火起こしの方法も紐キリ式、舞キリ式、弓キリ式といろいろあるようですが、縄文時代から始まり、きつと試行錯誤しながら試しては改善が繰り返されてきたことでしょう。



★ 鍬入れ式

大武川の河原で作成した鍬を使って鍬入れ式。 工事の安全を祈願します。  
鍬は石斧に比べ短時間で作成できたようで、柄への取り付けも容易だったようです。  
その後、参加者で掘削を始めます。 打製石器のみならず鹿のツノも使いましたがスコップとは違い、一かき一かきなので、削り取れる量も少なくあたかも発掘作業と同じかもしれません。



【お知らせ】 ◆今までの道具作り、資材調達といった準備作業から、土地の掘削、骨組み組立といった  
堅穴住居建設の新たなフェーズに入ってきます。 今まであまり参加されなかった方  
や、体力的にちょっとと思われた皆さんの、野次馬、応援、差し入れ、大歓迎です。  
これからも、どんどん多くの方が参加されるのをお待ちしております。